

ものづくり技術
一般型
試作開発
+
設備投資

消費者ニーズに応える為の 藁^{わら}紬^ない機の改良及び製造環境の構築 有限会社安部組



地元・富来地区の藁を
100%使用した注連縄



“左^{ひだり}紬^ないの三つ^{みつ}縫^{ぬい}り”を可能にした藁^{わら}紬^ない機



手作りにこだわる製品づくり



年間を通じて藁の保存ができるようにした乾燥機と貯蔵庫



ヒット商品の可能性を秘める『にゃどこ』

01 企業情報 profile

会社名 有限会社安部組
代表者 取締役 安部 徹
所在地 〒873-0646 大分県国東市国東町大恩寺3103番地
TEL.0978-74-0168 FAX.0978-74-1588
E-Mail kunisaki-abegumi@wine.plala.or.jp(担当 安部 徹)
事業内容 土木工事業、とび・土工・コンクリート工事業、舗装工事業
造園工事業、管工事業
資本金 1,500万円
設立 昭和57年11月29日
社員数 8名

02 概要 outline

注連縄・注連縄飾りの製造に関して
作業の簡素化・製品の安定化・量産化
を行うために藁^{わら}紬^ない機を作った。こ
の藁^{わら}紬^ない機を改良することで、幅広
い消費者ニーズに応える。

03 背景・経緯 background

農業事業への経営多角化に伴い 注連縄づくりも手がける

公共工事の減少に伴い、厳しい経営環境からの脱却を目指して、業態転換に挑戦する土木建築業者の存在を耳にするようになって久しい。とりわけ地方の土木関連従事者は、もともと農家を営む家庭に生まれた者も多いため、農業関連事業を事業化させて、本業が閑散期にあたる時期に人的資源を投入する企業も増えている。

世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域に本社を置く有限会社安部組も、いち早く農業部門の事業化を試みた土木建築会社のひとつである。

同社は平成18年に大分県から経営革新計画の承認を得て水稲苗や椎茸原木の販売等に取り組み、その翌年からはラジコンヘリコプターによる害虫駆除も開始した。平成21年には農業生産法人・株式会社安部を設立し、大分味一ねぎの生産もスタート。同社は平成24年に大分県野菜経営コンクール新人部門最優秀賞(県知事賞)を受賞し、平成26年には創業5年目にして大分県農業賞優秀賞を受賞するなど、経営の安定化に繋げている。国内の農業版 ISOといわれる『JGAP(Japan Good Agricultural Practice=適正農業規範)』も取得するなど地域農業の活性化に貢献する姿勢は、高い評価を受けている。

有限会社安部組では、地域文化の継承を担うべく、平成24年から注連縄作りにも取り組んでいる。約40年の経験を持つ注連縄職人から「伝統を守るため技能を承継したい」と申し出があったことがきっかけだという。

同社の注連飾りは、地元・国東の富来地区の藁を100%使用し、手作業にこだわった製造を心がけている。六郷満山と称される国東半島の神事に使われ、古来よりめでたいといわれる“左^{ひだり}紬^ないの三つ^{みつ}縫^{ぬい}り”という方式を採用し、その縁起のよさも手伝って、評判は上々である。

04 事業内容 details

三つ縫^{みつぬい}りを可能にした機械を開発し 職人の負担軽減と高品質の保持に成功

注連縄を綯う作業は熟練を要するうえ、作業する者にとっては手の痛みや疲労が生ずる。そのため同社では、当初から注連縄^{しんじゆ}機を導入したのだが、上述の三つ縫^{みつぬい}りに仕上げるためには不具合が多く、

注連縄に必要な膨らみを上手く表現できず、藁の継ぎ足し部分も不自然な形状となってしまう。

そこで同社では、機械設計事務所の協力を得て、三つ縫^{みつぬい}りが可能な紬^ない機をあらたに発注。ものづくり補助金を充当し、理想的な新規設備の開発に成功。加えて藁乾燥機と、1年間を通じて藁を保管できる貯蔵庫も設置し、高品質の注連縄づくりのための生産体制を整えた。

05 成果 achievement

高い導入効果を実現し 顧客の要望に応える

改良が施された新規の藁^{わら}紬^ない機は、製造工程の簡素化、製品の安定化・量産化に大きく貢献した。藁の継ぎ目が目立たなくなり、注連縄らしい中央部分の膨らみも表現できるようになった。また、様々な大きさの注連縄にも対応する一方で、軽量化により機械の移動を容易にした。

藁乾燥機と藁貯蔵庫の導入効果も大きい。カビの発生を防ぐと同時に、藁独特の匂いや色を伴う品質の良い乾燥藁が確保できるようになった。

顧客ニーズにマッチした、理想的な製造環境が構築できたと、同社は満足している。

06 展望 future

あらたな商品開発で 次のステージへの挑戦を試みる

製造体制の確立は、新商品開発も実現させた。

猫ブームにあやかって生まれたのが、話題の猫ちぐら『にゃどこ』だ。新潟や長野の民芸品で人気に火がついた猫ちぐらは、藁を編んで作った猫の寝床。冬は温かく、夏は涼しいという藁の特性を活かしたもので、ペット愛好家の間で引っ張りだこの製品である。同社では、縁起のいい富来藁で仕上げた製品として、本格的な販売計画を立案中である。

事業意欲旺盛な同社、次の一手に注目したい。

まとめ point

こだわりの製造環境実現が、新商品
開発も誘発。さらなる派生商品の開
発も期待される。